

第2次実験授業

ア. ねらい

第1次実験授業でとらえた問題点を解決し、思考力を育て認識を深めるための学習指導の条件を握する。

イ. 仮説

個別学習と集団学習の相補は、学習者個々の思考を育てるのに役立つ。

- ・個別学習は、課題意識を持続させ、かつ思考の素材としての事象、事実の獲得、概念化、心像化に有効で個々の思考のための前提条件を満たすのに役立つ。
- ・小集団学習は、学習者個々の思考結果を基礎にして小集団を構成する学習者個々の総和以上の働きをもち、個々に応じた学習を成立させるのに役立つ。

ウ. 結果についての要約

課題意識の持続は種々の要因のなかで、個別学習によって自ら探究する操作によることが効果をあげるひとつであり、小集団学習では、個別学習による学習結果がひとりひとりに保持されていること。小集団学習のための学習方法の訓練が徹底されていることが機能的相補の要である。

第三次実験授業

ア. ねらい

第1、2次実験授業の結果残された問題を究明し、思考力を高める学習指導の条件について資料を得る。

イ. 仮説

地理的思考力は学習指導過程において

- ・分布認識、関係認識、地域性認識の段階の構成、
 - ・学習者が課題意識をもち、課題意識に支えられて自ら追求する過程
- とが有機的に関連させて構成された時に高まる。

ウ. 結果についての要約

分布認識による地域構造の見通しと学習者自らによる関係は握の探究操作は、課題意識を強め、持続させる。これらは地理的思考力を高めるひとつの要件であると考えられる。

③ 今後のみとおし

第3次実験授業および各調査の結果を総合し、明年度以後の実験研究についての仮説をたて、2年（歴史的分野）の学習指導についても研究領域をひろめたい。

——英語科——

① 研究の対象 中学1年

② 学力の実態調査

ア. 福島県診断・標準学力テスト問題による。

・対象 前年度一年生全員 41・5・中旬実施

イ. 全国学力調査問題による。（昭和40年度の調査問題）

のうち、放送による問題を除いたもの。正味36分）

・対象 前年度一年生全員 41・6・中旬実施

ウ. 福島県診断・標準学力テスト問題による。

・対象 本年度一年生全員 42・3・中旬実施

エ. 全国学力調査問題による。（イに同じ）

・対象 本年度一年生全員 42・3・中旬実施

前年度一年生についてみると、福島県診断・標準学力テストの結果は目標標準よりやや上まわっている。

（学力偏差平均53.2）。全国学力調査問題では「発音」「語の意味」「文の意味」「語の運用」はほぼ全国なみであるが、「文の転換」「文型の運用」の到達率は、それぞれ59%、78%とかなりの低率を示している。これを技能面に視点をすえて見ると「聞く・話す」技能は全国なみであるが、「読む」技能（内容は握）はやや劣り、「書く」技能（英文構成）にはかなりの問題が残されているといえる。

② 意識の実態調査

・対象 本年度一年生全員

ア. 第一次意識調査 41・5・中旬実施

イ. 第二次意識調査 41・10・中旬実施

ウ. 第三次意識調査 42・3・中旬実施

「進路希望」「好きな教科」などの一般的な調査項目のほかに、とくに生徒達が授業および家庭で、ひとりてちむかう学習活動の場をとらえ、どこにどのような抵抗感をいだくものであるか。またそれらが学習の進展につれてどのように変容するものなのかを知る目的でおこなわれた。1、2回の間で、もっとも目立っている点は

⑦ 授業では「英問英答」と「口頭英作」に抵抗感が増していること。

④ 家庭学習では、当初暗唱に対してあまり抵抗感をいだかなかった女子が、2回目ではかなりの抵抗感を示すようになってきていること。男子は1、2回とも女子は2回目、暗唱と書取練習とに対する抵抗感がほとんど一致していることである。

このことは、生徒にとって暗唱（話すこと）書取（書くこと）との間にきわめて密接な関連があることを示し、それゆえに暗唱と書取練習とを有機的に学習させ得る指導法とその学習方法訓練が必要であると思われる。

③ 授業研究

ア. 第一次授業研究 41・6・中下旬

一般的な指導過程における各学習活動の効果的な運用を中心命題とする授業整備。

イ. 第二次授業研究 41・9・中下旬

第一次授業研究をもとに、四技能を有機的に習得させる指導過程および個人練習と全体練習の効果的な結合を中心命題とする授業整備。

ウ. 第三次授業研究 41・11・中下旬

第一・二次授業研究をもとに、生徒の類推力による学習推進を中心命題とする実験授業。

④ 教材研究および各種指導法の検討

⑤ 今後のみとおし

本年度みいだされた問題点の総合的な検討にたつて、明年度以後の実験研究についての仮説をたて、中学一年の学習指導法の改善をはかりたい。

5 高等学校における学力形成過程の追跡的研究

(I) 研究の目的

高等学校入学時における学力と入学後の成績との関係を